

I 地域概況

本田技研工業㈱の各製作所，研究所は九州地方から東へ太平洋ベルト地帯を中心に熊本県菊池郡大津町，三重県鈴鹿市，静岡県浜松市，埼玉県和光市，狭山市，朝霞市栃木県宇都宮市に位置している。1976年から行なわれた現地踏査による植生調査は各製作所，研究所の所在地の周辺域を対象にさらに室内作業による資料の整理から現存する植物群落の抽出と広がり把握された。次に現存植生を基礎に，地質，土壌，気候，人間との係わり合いなどが考察され，潜在自然植生が決定された。とくに環境保全林の形成が予定される各製作所，研究所敷地内では細かな立地条件との対応が比較され，潜在自然植生の構成種の中から植栽適性樹種が選考された。

本田技研工業㈱の各製作所，研究所は九州地方から関東地方まで異なる自然環境を背景とする地域に点在し，どの敷地も日本の商工業の中心となる常緑広葉樹林帯；照葉樹林帯（ヤブツバキクラス域；*Camellietea japonicae*）に位置している。

1. 熊本周辺

1) 位置

熊本工場は県中央部，有明海に面した熊本平野の内陸側にあり，東に阿蘇山を配し，熊本市の東部，菊池市の南部に位置している。工場の南台地上には豊肥本線や新熊本空港などの交通諸機関が完備し，交通物流に便利な立地である。

2) 気候

熊本市から菊池郡にかけて地域は，温暖多雨でとくに春季に活発な梅雨期がある。冬季は熊本平野の周囲の山岳気候の影響を受け，日較差が大きく，かなり冷えこむこともある。年平均降水量は約1,800mmで，年平均気温は15～16°Cの値を示している。

3) 地形，地質

熊本工場を含む一帯は洪積統の丘陵，台地からなり，表層は厚く，阿蘇火山による火山灰におおわれている。洪積台地は阿蘇外輪山に源を發する白川，菊池川，合志川，秋津川などの各河川によって外輪山の山麓から西へ長く刻みこまれている。台地上は海拔100～250mにあり，熊本工場は海拔約165mに位置している。

4) 植生概観

洪積台地上は平坦で厚く火山灰が堆積し，早くから農業生産のため利用されてきている。台地上の70%以上が耕作畑で占められており，主な栽培植物にはサトイモ，コムギ，オカボ，サツマ

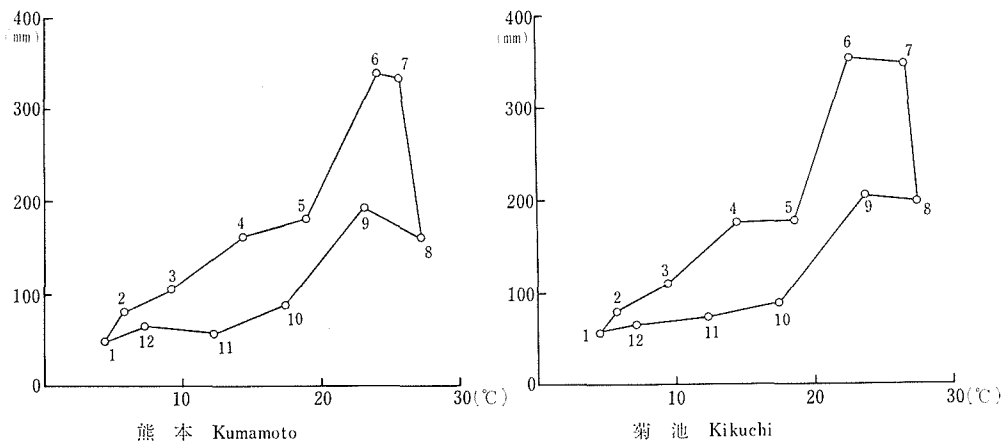


Fig. 1 熊本市と菊池市におけるクリモグラフ
Klimadiagramm der Stadt Kumamoto und Kikuchi

イモなどがみられる。耕作地に不適な丘陵部や台地肩部の斜面にはスギやヒノキの植林，あるいは薪炭材を目的としたクスギ，コナラの雑木林，食料ともなるモウソウチク林が錯綜してみられる。最近では木炭の利用低下に伴い，シイタケ栽培用を除いてスギ，ヒノキ植林に転用されるクスギ，コナラ林が多く，放置されたままのコナラ林も少くない。

洪積台地上の植生配分，土地利用と対照的なのが白川，矢護川，合志川など河川によって形成された沖積低地の植生配分，ならびに土地利用形態である。低地の多くはウリカワ—コナギ群集に代表される水田によって占められている。休耕田にはヨシやガマなど高茎な多年生草本植物を主とした群落もみられ，また河川沿いにはツルヨシ，ヨシ，ガマのほか潜在自然植生の構成種であるアカメヤナギも単木的に生育がみられる。

2. 鈴鹿周辺

1) 位置

鈴鹿製作所は四日市工業地帯南部の三重県鈴鹿市に位置する。鈴鹿製作所は海から約5.5km内陸の伊勢平野部にあり，西方には野登山（852m），明星ヶ岳（550m）など鈴鹿山脈南部が位置している。近くには国鉄伊勢線，関西本線，近鉄名古屋線，鈴鹿線などの鉄道，また，東名阪自動車道などの高速道など交通機関が発達し，名古屋，あるいは大阪方面へのアプローチに便利である。

2) 気候

鈴鹿製作所の位置する鈴鹿平野一帯は海洋性気候の影響を受けて温暖な東海型気候を示している。しかし台風の通過時には大雨をもたらすことが多く，また，冬季には鈴鹿山脈より強い季節

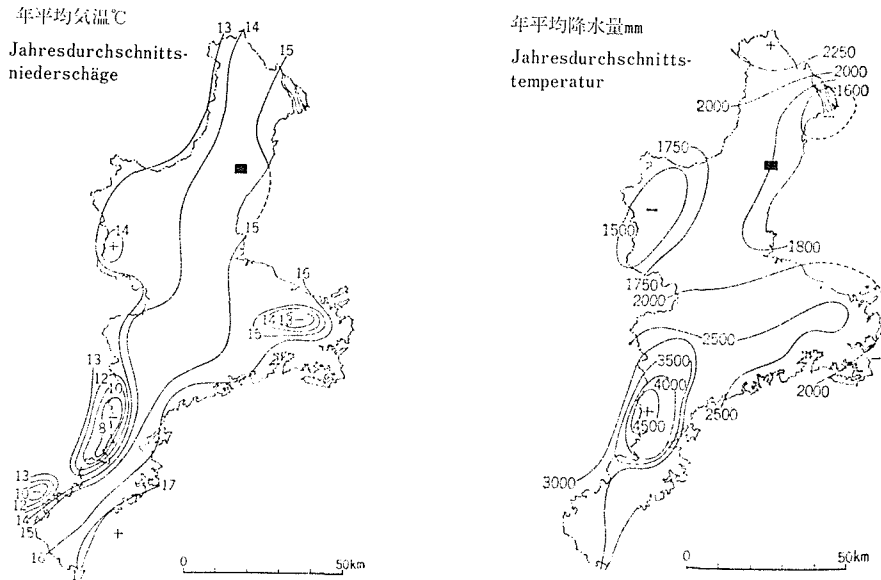


Fig. 2 三重県の年平均気温（℃）と年平均降水量（mm）

〔■ は鈴鹿製作所の位置〕（青野・尾留川 1976）

Jahresdurchschnittstemperatur (°C) u. -niederschläge (mm)

〔■ zeigt Ort der Suzuka-Fabrik〕（Aono, Birukawa 1976）

風が吹きあれることも多い。鈴鹿周辺の年平均気温は、14～15℃で冬季の気温も0℃を下まわることはいくつかあるが、温度較差が比較的激しく、暑く感じたり寒く感じたりする日も多い。年平均降水量は1,700～1,800mmで、梅雨と台風によりもたらされる降水が多い。三重県内ではもっとも寡雨地帯となっており、周辺にはタメ池も多くみられる。

3) 地形, 地質

鈴鹿市周辺は紀伊半島を横ぎる中央構造線の北側に位置し、内帯の領家地帯に含まれている。鈴鹿山脈や丘陵部は花崗岩や、秩父系堆積岩が花崗岩などの貫入によって変成した領家変成岩を基盤としている。台地や沖積低地は主に花崗岩の河川堆積物で形成されている。鈴鹿製作所は海拔約40mの台地上にあり、海成堆積物や鈴鹿川の河成堆積物により基盤が形成されている。

4) 植生概観

鈴鹿製作所周辺には主に丘陵部に鈴鹿山脈から連なる山麓下部が広がっており、多くはスギ、ヒノキ植林、アカマツ植林などの造林地となっている。その他にはクリ、コナラの薪炭林、あるいはコジイの常緑広葉樹萌芽林が点在してみられるが、面積的にはきわめて限られている。台地上は茶畑、苗圃、葉菜類、根菜類の耕作畑が広がっており、植生学的には耕作畑雑草群落のカラスピシヤク—ニシキソウ群集の生育域となっている。他にも農道上にはカゼクサーオオバコ群集、チカラシバ群集、チガヤ群落などの草本植物群落が生育しているがいずれも代償度の高い植生で

ある。台地上はまた工場の誘致も積極的に行なわれてきた結果、都市化が進んでおり、あき地や造成地にはセイタカアワダチソウ群落、メリケンカルカヤ群落、ヒメムカシヨモギ群落など帰化植物を中心とした都市雑草群落が生育している。

鈴鹿川によって開析された沖積低地は水田に利用され、その指標植物群落ともなるウリカワコナギ群落(夏季水田雑草群落)、ノミノフスマーケキツネノボタン群落が広く分布している。最近では転用のため放棄される水田も多く、チゴザサーヨシ群落やガマ群落が二次的に生育している。

3. 浜 松 周 辺

1) 位 置

浜松製作所は静岡県浜松市に所在し、海岸線より約6km内陸部、浜名湖より東へ約4kmの三方原台地上(海拔約45m)に位置している。近くには国鉄新幹線、東海道本線、私鉄遠州鉄道、また自動車道では東名高速、国道1号線、152号線が通り、交通網が発達している。

2) 気 候

静岡県西南沿海部の浜名湖一带は県内でも、もっとも暖かく、年平均気温は15℃を越え、最寒月でも0℃を下まわることがきわめて少ない。温和な海洋性気候の影響と、さらに浜名湖の気温緩和作用が働いているためである。年平均降水量は約1,900mmで全国的にみても平均的な降水量をもたらしている。降水量はとくに6月と9月の梅雨期と台風通過時にもたらされる。

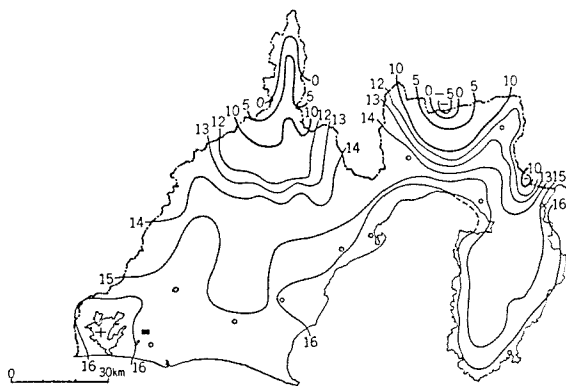


Fig. 3 静岡県の年平均気温 [■ は浜松製作所]
(青野・尾留川 1979)

Jahresdurchschnittstemperatur der Präf. Shizuoka
[■ zeigt Ort der Hamamatsu-Fabrik.]
(Aono, Birukawa 1975)

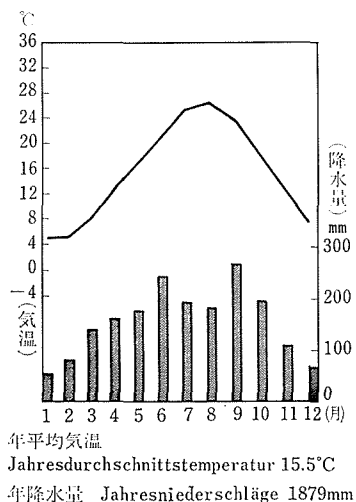


Fig. 4 浜松市の気候ダイアグラム
(青野・尾留川 1979)

Diagramm des Klimas in der Stadt
Hamamatsu (Aono, Birukawa 1979)

3) 地 形, 地 質

三方原台地はリス・ビュルム間氷期に形成された洪積台地で、上部層には約 50cm の礫層が存在し、その下部には内湾成泥層を有することが多い。三方原台地の海側には海拔 2 ～ 5 m の浜名湖周辺平野があり、さらにその前面の海ぎわには、帯状に遠州海岸砂丘地が連なり、中田島砂丘のように規模の大きな砂丘もみられる。

浜名湖はわが国第10番目に大きな汽水湖で、総面積は 64.9km²、海岸線は 92km に及んでいる。その誕生は三方原、高師原、天伯原など洪積台地の侵食谷に海水が侵入して形成されたものである。

4) 植 生 概 観

沿海部に面した浜松周辺は温暖で、冬季も暖かく、とくに浜名湖周辺は暖地生のルリミノキーイチイガシ群集の分布の北限域となっている。三方原台地上にも、かつてはミミズバイースダイ群集やイノデータブノキ群集が分布していたと考えられるが、明治時代以降の開拓により、茶畑や果樹園、あるいは葉菜や根菜などを目的とした耕作畑に変えられていった。今日ではかつての自然植生のおもかげをとどめているシヤクタブノキの常緑広葉樹林は鎮守の森としてお宮にわずかに残されているにすぎない。台地上の畑地や人家のまわりには防風も兼ねてイヌマキの生垣の多いのが景観的な特徴ともなっている。台地上の多くが畑地で占められるのとは対照的に都田川、馬込川などによって形成された沖積低地は水田で占められている。東海道の街道筋には古くから集落も発達しており、クロガネモチ、タブノキ、クスノキ、クロマツなどの大木が点在してみられる。海岸砂丘上にはクロマツが砂防用に植栽されておりその後方の後背湿地にはヒメシロアサザ、ガガブタなどを中心とした抽水植物群落が生育している。

4. 埼 玉 周 辺

1) 位 置

埼玉県下の本田技研工業(株)の所在地は和光市、朝霞市と狭山市にあり首都圏の西北部に位置している。和光市の和光工場、和光研究所、朝霞市の朝霞研究所は川越街道、国鉄武蔵野線、私鉄東武東上線など交通手段の多い地域にあり、また狭山工場も西武鉄道新宿線に接してみられる。

2) 気 候

埼玉県全体は典型的な表日本型気候に属し、冬季は晴天が続き、降雨はきわめて少ない。朝方は冷えこみやすく、ローム土壌によく霜柱の立つのが観察される。夏季も晴天が多く、日中の温度も高くなり、8月の観測データで平均日最高気温が30℃を越えることも少なくなく、東北部の沖積平野では最高気温30℃以上の日が40日以上続くこともある。夏季の降水は主に台風と雷雨によってもたらされる。狭山市、和光市周辺の年平均降水量は1,400～1,600mmで日本全国の平均

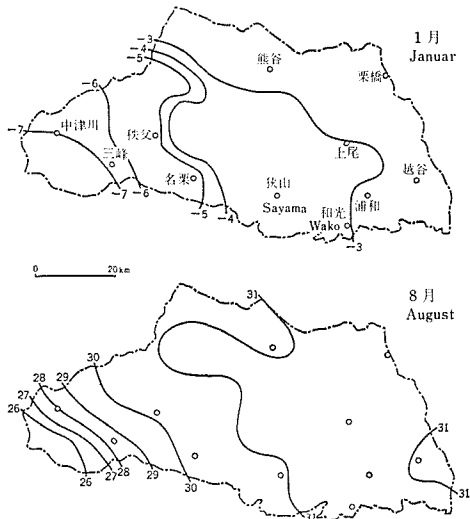


Fig. 5 埼玉県における1月の最低気温(°C)と8月の最高気温(°C)の分布
(青野・尾留川 1979)
Minimum- und Maximumtemperatur im Januar und August in der Präf. Saitama
(Aono, Birukawa 1979)

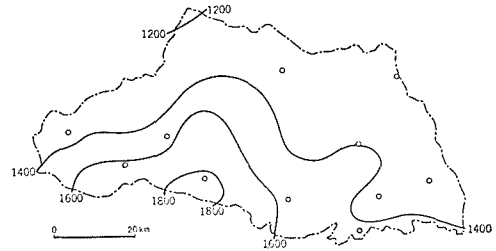


Fig. 6 埼玉県における年降水量(mm)の分布
(青野・尾留川 1979)
Jahresniederschläge in der Präf. Saitama
(Aono, Birukawa 1979)

と較べて100~400mm少ない。降水量は狭山丘陵，比企丘陵など南西部の山間部にいくにしたがって増加し，ところによっては1,800mmに達する。

3) 地形, 地質

和光市や狭山市の位置する武蔵野台地は南西—北東方向に傾斜し，海拔は和光周辺で約40m，狭山周辺で約50mある。沖積低地より30~40m高く，台地上には黒目川，柳瀬川，不老川が規模の小さい単純な開析谷を形成している。武蔵野台地は地表から厚さ5~7mに関東ローム層が堆積し，その下にさらに2~3mの厚さで武蔵野礫層がみられる。武蔵野台地は北部で，入間川沖積低地をはさんで入間台地に接し，東部では荒川によって形成された沖積低地，さらに南西部では多摩面に相当する狭山丘陵に接している。

4) 植生概観

武蔵野台地上はかつて木炭の生産のため薪炭材としてクヌギ，コナラの夏樹広葉樹二次林が広く生育していた。これらの森林は武蔵野の雑木林として北関東の景観を特徴づけるものであった。今日では木炭の需要低下に伴い，耕作地や宅地に転用される林分が多く，武蔵野のおかげは雑木林の消滅とともに薄らいでいくという声も聞かれる。台地上の土地利用は主に耕作地にあてら

れており、茶、落葉果樹、葉菜、根菜類が生産されている。耕作地には好寒性一年生植物を主としたカラスビシャク-ニシキソウ群集が分布し、耕作放棄地や造成地、農道沿いにはセイタカアワダチソウ群落、アズマネザサ-ススキ群集、ユウガキク-ヨメナ群集など多年生草本植物群落点が点状あるいは帯状に生育しているのがみられる。台地上は戦後の復興とともに工場の誘致、軍事施設、新興宅地の建設が盛んに行なわれ、比較的新しい小都市がいくつか生まれた。和光市や狭山市もそのひとつである。

5. 宇都宮周辺

1) 位置

栃木県の宇都宮市の周辺域は東京から約 100km はなれた北関東に位置し、本田技研工業(株)の栃木センターならびに真岡工場は宇都宮市東方の鬼怒川をはさんだ真岡台地上に位置している。この地域には太平洋ベルト地帯と東北日本の接点にあり、国鉄東北本線、東北新幹線、真岡線、国道4号線、東北縦貫道などの流通動脈が通っている。

2) 気候

宇都宮周辺は表日本型気候の中でも内陸型に属している。夏季は関東平野中央部に比較して気温も幾分低く、8月の日最高気温も31℃をうわまわることはない。降水は6月から9月にかけて多くなるが月の降水量が300mmを越えることは少ない。冬季は冷えこみ、1月の日最低気温が

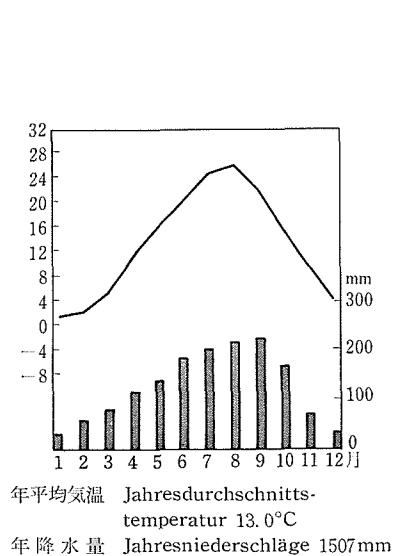


Fig. 7 宇都宮における気候ダイアグラム
(青野・尾留川 1979)

Diagramm des Klimas in der Stadt
Utsunomiya (Aono, Birukawa 1979)

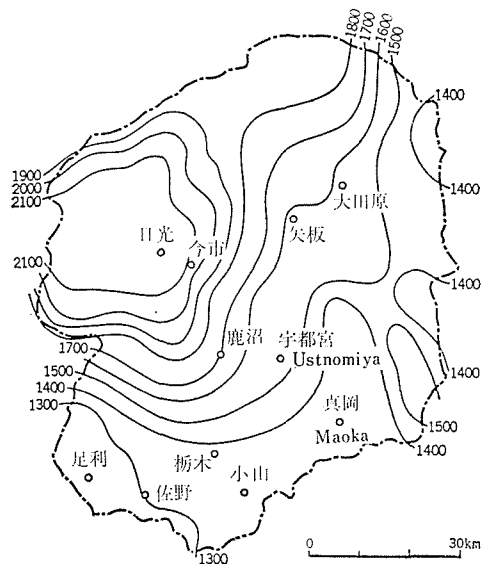


Fig. 8 栃木県における年降水量(mm)の分布
(青野・尾留川 1979)

Jahresniederschläge in der Präf. Tochigi
(Aono, Birukawa 1979)

−4〜−5℃に下がる。宇都宮の1891〜1955年の統計で平均すると1月の日別最低気温が−5℃以下の日は25日を数える。冬季はまた季節風が強く、火山灰土を吹きあげ、空が黄色にみえる日も少なくない。年平均降水量は1,300〜1,500mmと少なく、内陸型気候の大きな特徴となっている。

3) 地形, 地質

栃木センターや真岡工場の位置する真岡台地は鬼怒川の東部に南北に長く発達している。台地上は海拔約90〜150mで、北に高く、南に低い傾斜をみせている。堆積物は主に宝積寺段丘礫層と田原段丘礫層からなり、表層に厚く関東ロームがおおっている。礫層は沖積低地と台地上部の標高幅約30mの台地肩部斜面に露頭のみられることがある。

4) 植生概観

真岡台地上はかつて薪炭材として広くクスギ、コナラの雑木林が分布していたが、戦後の木炭の需要の低下とともに開墾が進み、牧草地、耕作畑、苗圃にかえられていった。またスギ、ヒノキ、ニセアカシアなどの植林に転用された地域も少なくない。台地上の多くは今日ではカラスピシャクニシキソウ群集に代表される耕作地が広がっており、農道あるいは放棄された畑地にはヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群集、セイタカアワダチソウ群落、ススキ群落、クズ群落



Fig. 9 深く関東ロームでおおわれている高根沢町。

Mit dicker Auflage vom Kanto-Lehm bedeckte Takanezawa-machi (136m ü. NN).

などが点在している。台地斜面は水はけが良く適潤でスギの植林に適しており、スギやモウソウチクの植林，ケヤキの屋敷林が帯状にみられる。林内には潜在自然植生の構成種であるシラカン，シロダモ，シュロ，ムクノキなど常緑広葉樹や夏緑広葉樹の実生が多い。